

# 「つき」を呼ぶ生き方

## 1. ボヤキだけでは現状打破できない

右掲は、30数年前にシステムづくりに行ったお客様の壁に貼ってあったものです。明元素言葉と暗病反言葉の間に「ありがとうございます成功を勝ちとるプラスの言霊エネルギー」と書いています。「明元素」は現状打破言葉で、現状維持言葉は「暗病反」となるという事です。その下は738号でもご紹介した「池の魚、川の魚」のイラストです。「池の魚」になると暗病反言葉が多くなり、「川の魚」は明元素言葉が多くなります。

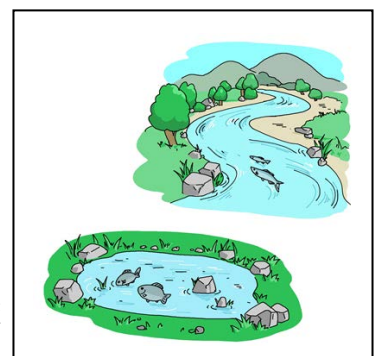
私は経営コンサルタントの仕事をしていますが、この2種類の言葉の差は創業者と事業承継者との差に近いように思います。「うちの社員はやる気がない」とボヤクのは後者に多いです。創業者はボヤク前に自分で解決しようとしますので、「暗病反」ではおれないのです。何故なら、事業承継者の意識はサラリーマン化してしまって、自分で何かをやって儲けようという意欲に欠けるので「ボヤキ」が出て来るのです。当然、「ボヤキ」なので想いと現実のギャップがあるのですが、このギャップを自分がリーダーシップをとって解決しようとするか否かの差、つまり、打破するか否かの差なのです。

これを換言すると守りの姿勢になって「池」を作るのか、攻めの姿勢で広い世界に入る「川」に入るかの差です。「池」は範囲が見えているので比較的 안전한ので現状維持、つまり、惰性で生きる事を望む事になります。一方、「池」から一歩踏み出して「川」に入ると世界は果てしなくなります。それこそ「やる気」次第では、同じ業種業態の「川」から出て異業種の「海」にもつながるのです。トヨタの「一人一業」主義は、「池」で甘んじる事無く、さらに、同じ業種業界の「川」ではなく、いきなり異業種の「海」へ放り出して、広い海の中で自分の世界をつくり新しい「川」に行きつくという思想です。

## 2. 積極的ボヤキ

ボヤクという事は誰にでも共通する事ですが、ボヤキにも2種類があるのです。生産的なものと非生産的なもの。多くの方は後者のタイプが多いのですが、非生産的なボヤキは裏返すと前向きな事につながるのですが、それは自分にかかって来るので踏み込まないのです。「Why<sup>5</sup>」と言いますが「それは何故ですか？」と5回も深堀すると必ず自分に及んで来るのです。通常は2回目自分に及ぶので、大抵は自分が解決すべき事だが他人の所為にしたいと転嫁する為にボヤいているのです。もう一方は、「○○したいのにできない」という風な積極的なボヤキです。これは「3つの‘不’」(不足・不満・不便)という視点で分類すると方策が浮かんで来るのです。

積極的ボヤキの対応策は、「不足」に対しては購入するか代替を選ぶ事や「不満」は他者との比較で起こる事が多いので自分はどうかを決める事そして「不便」は現状は何かかなるが何かを変えると便利になるという事などです。これを聞く方が積極的ボヤキと理解する事で受容できるのです。まずは言い分を受け止めるとボヤキの大半が解決するのです。意外な盲点は「自分にさせてくれない」という不満です。このタイプの方は優秀で自分に自信があるのでこれを放っておくと「やる気」を失うか不満が蓄積して大きな爆発となり辞めていく人材喪失という損失になります。この不満は経営者や上司の耳に入りにくいので平素からネットワークを構築して情報収集する事がポイントになります。個人面談という手法もありますが、会社規模によりますが頻度を増やす訳にも行かず、よくあつて半年に1回というケースが大多数です。個人面談の時は、双方に緊張感があるので、一方的かつ表面的な会話になりがちです。うまく話題をふらないと本音を吐露される事はないので聞き出す会話術がキーになります。



### 3. 三波春夫さんに学ぶ

私は長編歌謡浪曲「俵星玄蕃」が大好きで三波春夫さんに興味があります。三波さんは父と同じ大正12年の生まれで、家業は本屋でお父さんから民謡を教わり、13歳で東京に丁稚奉公に出て、16歳の時に日本浪曲学校に入り芸名は南條文若でデビューし、20歳の時、戦争に行き終戦後満州で捕虜になり4年間シベリア生活して26歳で帰国されています。そして、浪曲家として再スタートを切るのですが、浪曲コンクールで村田英雄さんの存在を知り、昭和32年に歌謡界に轉身し「チャンチキおけさ」(裏面:「船方さんよ」)でデビューして大ヒットとなり国民的歌手の座を得て、「東京五輪音頭」や「世界の国からこんにちは」で国の大イベントの曲を歌いました。

私は、三波さんが「つき」と思うのは、戦争で生き残った事も大きいですが、浪曲の世界でライバルの出現で、きっぱり見切って歌謡界に轉身、国民的歌手になっても若手歌手の台頭があり、独自の世界、つまり、歌謡浪曲の世界をつくり「セリフ」物なら三波さんという代名詞が付いたのです。「大利根無情」や「一本刀土俵入り」という3分ものから約10分の「俵星玄蕃」などの長編歌謡浪曲というオンリーワンの世界を切り拓いたのです。歴史に造詣が深い三波さんは赤穂義士や紀伊国屋文左衛門などの豪商ものを自分で作詞(作曲)で歌っておられます。そして、東京の歌舞伎座の8月公演を20年されています。また、着物スタイルも三波さんが最初との事です。有名な「お客様は神様です」も三波さんの人柄が出ている言葉で嫌味がありません。

このように、丁稚奉公の中で浪曲学校へ行き、浪曲でシベリア抑留生活も自分を際立たせて、帰国後は浪曲で再スタートするがライバルの出現で歌謡界に轉身、国民的歌手の座を得ても若手の台頭で浪曲もので独自の世界を築くという戦略的に変身されているのです。最近の言葉では OODA (Observe: 観察、Orient: 状況判断、方向づけ、Decide: 意思決定、Act: 行動)と言いますが、周囲の状況変化を見て自らを変容されているのですが、自分の得意である浪曲を忘れずにニッチな世界を築かれたのです。つまり、船井先生の「過去オール善」の教えのように、国民的歌手と意地をはりライバルと競うのではなく、さっぱりと自分が輝ける分野に戻って「お客様は神様」と自分のファンに歌謡浪曲やセリフ物で支持を受けられたのです。多分、国民的歌手として流行歌に拘っておられたら、歌の流れに押し流されて泡沫になっていたと思うのです。「つく」には「自分が輝ける」という事が大切だと実感しています。

### 4. 少し周囲を見る余裕

今回は「つき」について「ボヤキ」から入り三波春夫さんの戦略的変容を学びましたが、実は大きな要素が抜けているのです。それは、科学性に欠けますが、「直観力」で、「イける！」という閃きなのです。右掲は、私が「成功の方程式」と名付けている四行訓です。最初の「心が変われば、行動が変わる」がポイントです。「イける！」という閃きを行動に移して、継続することで習慣化する事が大切です。つまり、「イける！」という直観力(閃き)を確信して実行する事が第一歩なのです。行動を起こせば、「3回安定10回固定の原則」に従って、習慣と身に付くまで持続する仕掛けが重要になります。

心が変われば、行動が変わる 行動が変われば、習慣が変わる 習慣が変われば、人格が変わる 人格が変われば、天命が変わる
---

しかし、「直観力」で「イける！」と閃いたとしても持続できなければ「つき」にはならないのです。「3つの‘不’」で得たボヤキを裏返して実践する事ですが、かけ離れた事になれば成功は覚束ないのです。三波さんが浪曲をベースに流行歌に轉身して「チャンチキおけさ」や「東京五輪音頭」などで国民的歌手としての地位を獲得したが、流行歌の流れを読んで深追いせず自分の得意である浪曲を貫き、最後は「平家物語」という長編歌謡浪曲集を完成されたように自分の輝く分野を貫く事が大切です。浪曲にも流行歌にも直視せず、少し違った角度で長編歌謡浪曲という独自のジャンルを切り拓いてファンに応えたのです。重要なポイントです。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> にあります！】